

地域に開かれた安全・安心な

学校づくりガイドブック



子どもから高齢者までいきいきと生活できる
学校づくり・まちづくりに向けて

高齢化の進む地域のコミュニティを 再生する学校づくり

—長岡市立四郎丸小学校—

学校・施設概要

所在地：新潟県長岡市四郎丸

創立：明治7年（昭和9年に現在地に移転）

児童数：465名

学級数：15（平成14年5月現在）



赤城コマランドで実施した6年生の総合的な学習の時間

地域・コミュニティの特性

- 積雪の多い地方都市の中心市街地。
- 高齢化の進む既成市街地の周辺に、集合住宅等の建設が進み、新住民が増加している。
- 地域住民のコミュニティ活動を総合的に支援するために、公民館・児童館・福祉センターの活動を包含した拠点形成を目指す「コミュニティセンター構想」の試行地区に指定されている。

事例の特徴

- 地域の様々な団体が連携するコミュニティ組織が立ち上げられている。
- 教育環境づくりに地域全体で取り組んでいる。

新旧の住民が集い、 力を発揮しやすい場づくり

公民館、児童館、福祉センターの機能を集約した。「四郎丸コミュニティセンター」を中心に、小・中学校やPTA・町内会・老人クラブ・趣味やボランティア活動などの各種サークル等が「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」をつくり、地域の安全や福祉、健康、教育環境づくりに協力・連携しながら取り組んでいる。



地域と学校との連携によるペットボトルロケット大会



赤城コマランドにできた手作りの「図書室」

子どもたち、保護者、地域住民が 集う山林づくり

「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」が、地元農家から山林の貸与を受け、PTAや住民等が子どもたちとともに冒険遊び場づくり（赤城コマランド）に取り組んでいる。総合的な学習の時間などに学習活動の場としても活用されている。子どもたちが地域づくりに参加しながら、日常的に住民との交流を深めている。

事例から学ぶ

地域に開かれた安全・安心な学校づくりの創意・工夫

起こす

広げる・つなげる

続ける

コミュニティ活動を総合化する場所と体制をつくった

- 公民館、児童館、福祉センターを集約した「四郎丸コミュニティセンター」に、小・中学校やPTAも参加する「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」を置いている。趣味やスポーツ、ボランティアなどのサークル・クラブ活動を行いやすい環境がつくれられ、防災・防犯活動や健康づくり、福祉コミュニティ、子育て支援などの事業が行いやすくなった。

「学ぶ」ことについて地域ぐるみで考える場をつくった

- 「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」内に、「四郎丸地区教育環境づくりの会」を立ち上げた。「子どもたちを地域全体で育てる」というテーマのもと、社会教育だけでなく学校教育にも活かせる、地域住民のサークル活動や学習イベントなどの情報を提供している。

子どもたちが自由に学べる場所を、地域に見つけた

- 総合的な学習の時間などの学習活動や子どもたちの冒険遊びの場として、PTAが「学校の森」を提案した。「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」が地元農家から山林を借り受け、「赤城コマランド」と名づけて学習活動や冒険遊びに利用している。

子どもたちのための場所をみんなが集う場所にした

- 「赤城コマランド」での学習や地域のコミュニティ活動を通じて、シーソーやブランコなどの遊具の製作や、清掃活動などの山林の手入れを住民と子どもたちが一緒に行っている。また、「植樹会」を開催し、多くの人が「赤城コマランド」に集まり、関心を寄せる機会をつくっている。

じっくりと長い年月をかけて「育てる」活動を取り入れた

- 赤城コマランドでは、「植林」を行い、百年後、千年後を考えた山林やまちを育てる活動を進めている。

安全・安心のための工夫

- 「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」に学校が参加し、町内会、防犯・防災関係団体等と連携した活動や情報の共有を行っている。
- 山林での活動の安全性などを下見する「探検隊」に、子どもから高齢者までが参加して、「赤城コマランド」の開発計画を作成した。
- 総合的な学習の時間などで「赤城コマランド」を利用する際には、多くの住民が学習活動を支援している。

この資料は、平成14年度の国土交通省所管の地域活性化施策推進費を活用し、文部科学省、警察庁、厚生労働省、国土交通省が連携して実施した「学校を核とした住宅市街地整備の推進に関する調査」における学校委員会での検討を基に、地域に開かれた安全・安心な学校づくりを進めるためのヒントについてまとめたものです。

学校を核とした住宅市街地整備の推進に関する調査「学校委員会」委員

委員長 長澤 悟 東洋大学 工学部建築学科 教授
委員 田中栄治 特定非営利活動法人地域交流センター 代表理事
中村 勉 株式会社中村勉総合計画事務所 代表取締役
橋本由愛子 東京都北区立王子中学校 校長
樋村恭一 財団法人都市防犯研究センター 主任研究員
平井明成 北陸先端科学技術大学院大学 助教授
平野隆之 日本福祉大学 社会福祉学部保険福祉学科 教授
諸橋和行 財団法人日本システム開発研究所 副主任研究員
吉村英祐 大阪大学大学院 工学研究科 助教授

(五十音順)

事務局 社団法人 文教施設協会
調査協力 社団法人 ユースボウル・ジャパン

文部科学省 初等中等局施設助成課
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2
TEL: 03-3581-1938(直通) FAX: 03-3593-7798

警察庁 生活安全局生活安全企画課
〒100-8974 東京都千代田区霞ヶ関2-1-2
TEL: 03-3581-0141(代表) FAX: 03-3581-0096

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課
〒100-8916 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2
TEL: 03-3595-2616(直通) FAX: 03-3591-9898

国土交通省 住宅局住宅政策課
〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3
TEL: 03-5253-8504(直通) FAX: 03-5253-1627

学校を核とした
住宅市街地整備の推進に関する調査

報告書

平成15年3月

社団法人 文教施設協会

高齢化の進む地域の コミュニティの再生

長岡市立四郎丸小学校

- ◆積雪の多い地方都市の中心市街地。
- ◆高齢化の進む既成市街地の周辺に、近年集合住宅等の建設が進み、新住民も増加している。
- ◆教育文化施設が並ぶ文教地区。



赤城コマランドでの植樹



コミュニティ活動推進会議での学校と青少年健全育成連絡協議会の連携によるペットボトルロケット大会

■事例のタイプ

市街地類型：既成市街地

コミュニティの成熟度：成熟コミュニティ

地域活動のタイプ：住民リーダーシップ型

■事例の特色

- ◆子育てへの想いを地域づくりにつなげる
教育環境づくりに地域全体で取り組んでいる。
- ◆子育て・学校の教育・安全への参加の呼びかけがコミュニティの種になる
地域の様々な団体が連携するコミュニティ組織が立ち上げられている。

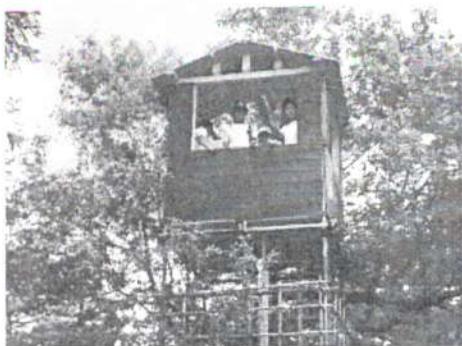
■事例の概要

学校が立地する地域は、長岡市の中心部にある古くからの既成市街地であり、高齢化が進んでいる。周辺に新興住宅地が形成されているが、従来のような「雪国ならでは」の連帯意識が、都市構造の変化（除雪・融雪機能のある市街地）や核家族化などによる社会構造の変化に伴い希薄化しており、生活を支え合うコミュニティの形成が課題となっている。

市は、公民館・児童館・福祉センターの活動を内包した、地域住民のコミュニケーション活動を総合的に支援する拠点としての「コミュニティセンター構想」の試行地区に四郎丸地区を指定し、コミュニティ形成を推進しており、地区内の多くの団体が参加して「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」が立ち上げられている。また、阪神大震災を教訓に自主防災会の組織づくり進めており、四郎丸地区ではいち早く結成された。このように、四郎丸地区は、地域安全活動や教育・福祉などの幅広い分野を総合的・組織的に取り組むコミュニティ形成に取り組んでいる地区である。

また、四郎丸小学校PTAでは、子どもたちの冒険遊び場となる「学校の森」を提案した。当初は、学校敷地の改造を検討し、見通しの確保など安全管理を優先する意見がPTAから出されたために断念したが、それらの活動を知った地元農家から山林（学区域外）の無償貸与の申し出があった。この山林を「赤城コマランド」と名づけ、山林の所有者とPTA、その他の地域住民と子どもたちの手による冒険遊び場つくりが進められている。これらの活動は、「四郎丸地区コミュニティ活動推進会議」に属する「四郎丸地区教育環境づくりの会」とPTAとの協働によって取り組まれており、地域活動との連携を図りながら子どもたちの新しい学習環境を創り出している。

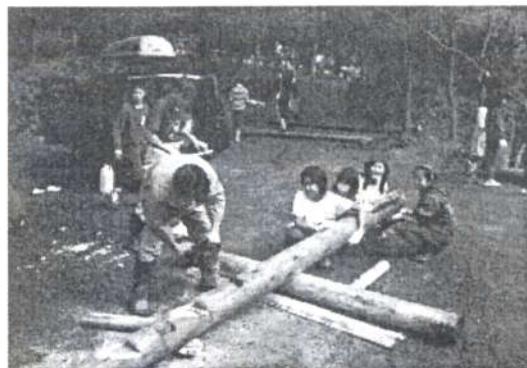
地域に開かれた学校づくりの活動



6年生と地域住民が力を合わせてつくった
赤城コマランドのツリーハウス

子どもたち・学校によるまちづくり

●「四郎丸地区教育環境づくりの会」と「四郎丸小学校PTA冒険倶楽部」は、コミュニティ活動推進会議が地元農家から無償貸与を受けている山林を「赤城コマランド」と名づけて、子どもたちとともに企画・活動して冒険遊び場づくりを行っている。学校は、総合的な学習の時間等の自然・農業体験学習拠点として活用するとともに、校内に植林用の苗床を確保する等連携を図っている。



地域住民と子どもたちによる遊具
(6人乗りシーソー) の制作

地域の人の学校教育への参加

- 地区内のコミュニティ組織・団体が関わる「四郎丸地区教育環境づくりの会」が組織され、「子どもたちを地域全体で育てる」というテーマのもと、社会教育だけでなく学校教育にも活かせる地域の活動について学校に情報を提供し、協力している。
- PTAの「冒険倶楽部」を中心に「赤城コマランド」に関心を持つ大人たちが、総合的な学習の時間や子どもたちの自主的な「赤城コマランド」づくりを支えている。
- PTAにより、読み聞かせボランティアなどの「楽習参加(学習参加)」を実施している。

赤城コマランド

地元農家が所有する山林を平成12年4月から、冒険遊びや環境学習の場として子どもたちや地域住民が利用している。簡易トイレやキャンプサイト、展望ツリーハウス、遊具など、すべて子どもと地域住民の手づくり。学校も総合的な学習の時間に利用している。

学校・地域の防犯活動

- 学校も参加するコミュニティ活動推進会議に、町内会や小・中学校、民生委員・児童委員のほか、青少年育成団体や防犯協会、老人クラブなど地域のコミュニティ組織・団体が加わることで、安全・安心に関する総合的な情報収集や連絡調整を行える体制が整えられている。
- 「赤城コマランド」での学習活動が安全なものになるよう、多くの地域人材が活動の支援や指導を行っている。また、ごみ清掃や林の手入れ等を、子どもたちも加わって定期的に実施し、「赤城コマランド」の安全の向上に取り組んでいる。

地域の人の学校運営への協力

- PTAによる図書ボランティアや、赤城コマランドの維持管理、学習プログラム開発に、地域の人々が積極的に関わっている。
- PTA全体で地区内の資源回収を推進し、収益を冒険倶楽部・図書ボランティア・児童会のほか、地区的青少年育成団体やスポーツ少年団等に還元し、一連の資金の流れを広くPRして地域と学校との協力・連帯に努めている。

地域に開かれた学校づくりのヒント

A. 起こす

A 1 0 コミュニティ活動を総合化することで、まちづくりの力が高まる！

コミュニティセンターの開設と、コミュニティ活動推進会議を組織することで、地域のボランティアやNPOの活動、そして、地域自治や福祉、青少年育成、防犯・防災などの地域組織が情報を交換し、相互の協力関係を築く機会を増やし、連携した活動を行いやすくしている。

A 1 1 地域ぐるみで「学ぶ」ことについて考える場があれば学校も地域も活性化する！

教育環境づくりの会を組織して、地域の大人たちのサークル活動や学習イベントなどの社会教育関係の情報を集め、地域の人が相互に学び合うことについて検討している。PTAや学校関係者が参加することで、学校教育との関連性をともに考えることができる。

A 1 2 みんなでより多くのことを学べる場を探すことが大切！

四郎丸小PTAは、子どもたちの自然体験や自由な遊びの場づくりについて、安全を考慮した結果、求める機能（自然体験や自由な遊び）を制限して無理に学校につくるのではなく、地元農家に相談し、荒れていた地域の山林を借用して、子どもと大人が集まれるようにした。これによって、子どもと大人が一緒になって遊び、学びながら、荒れた山林を再生する活動につなげている。

B. 広げる・つなげる

B 1 2 活動を象徴するイベントを開催し、地域の人々の関心を引くことが活動の輪を広げる！

赤城コマランドでの「植樹会」や、自主防災会が主催する防災訓練など、実際に「協働」を楽しめるイベントを開催することによって、関心のある人への呼びかけを行っている。これによって、徐々に活動に参加する人を増やしている。

C. 続ける

C 1 0 時間をかけて「育てる」活動を取り入れることで、多くの人が長く取り組めるようになる！

子どもたちと地域住民が協働して手作りの遊具をつくり続けることで、遊びや学習環境を充実させている。また、赤城コマランドへの植林を百年後、千年後を見据えて子どもたちとともに取り組むことで、地域と学校の協力関係が継続するようにしている。

安全・安心のための工夫

S 7 学校外での活動を安全にする工夫

- 学校は、コミュニティ活動推進会議への参加や教育環境づくりの会との連携により、安全に関する情報交換等を行っている。
- 山林を子どもたちの学習や遊び場「赤城コマランド」とするために、子どもから高齢者までが参加して山林の下見（2次にわたる探検隊の編成）を行い、開発計画を作成している。
- 学校での学習活動や子どもたちが参加する活動時に、多くの地域の人材が子どもたちの指導や支援を行っている。
- 「赤城コマランド」のごみ清掃や藪やイバラの繁茂する林の手入れ等を、子どもたちとともに安全確保に無理がない程度に行い、少しずつ安全に行動できる範囲を拡大している。また、子どもたちと大人が協力して手作りで遊具を製作し、使い方等を指導しながら安全に遊べる環境をつくっている。